



ポストコロナ時代の新しいオフィスの在り方

集中から分散へ。

# Raindrops

新型コロナウイルスにより、働き方は一変しました。テレワーク・在宅勤務を推進・人数を制限して出社・オフィス縮小・サードプレイスを取り入れた拠点分散型オフィスなど様々な変化があり、これからはさらにオフィスの役割とオフィスデザインは見直されると予測できます。少なくとも従来のような大きなスペースではなくスモールオフィスへと舵がきかれるものと思います。そして余ったスペースをどのように有効的に活用すべきかというのが発想の原点となっています。

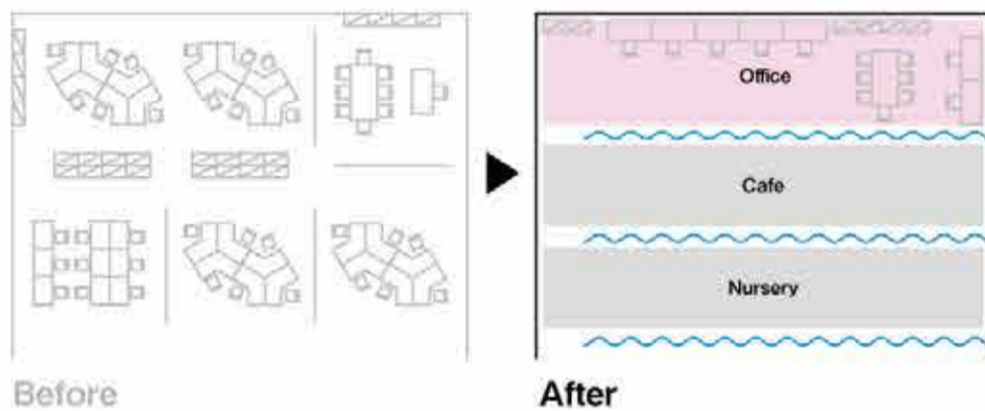


「作業する場所」から「コミュニケーションをする場」へ。

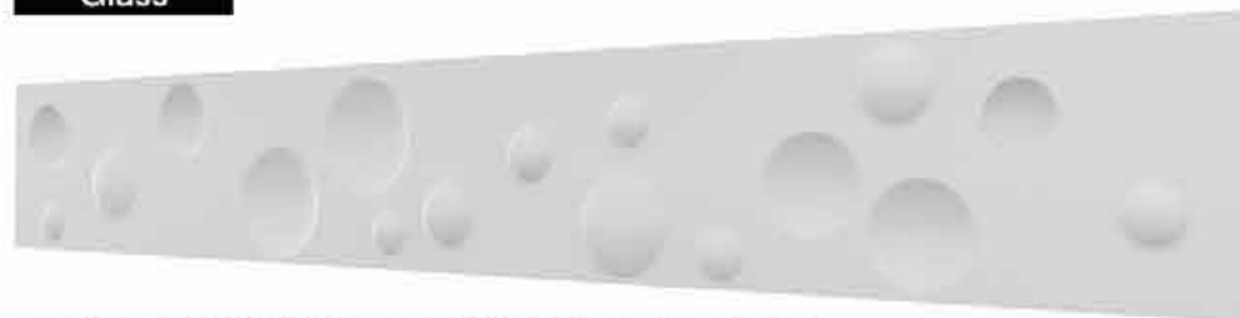
これからのオフィスは「作業する場所」という側面が薄まり、「コミュニケーションをする場」としての役割が強くなっていくでしょう。そしてそのオフィスは何も同じ会社の従業員だけが集まる場である必要はありません。一般的なシェアオフィスと本提案の違う部分は業種の幅を広げたところにあります。例えば託児所・書店・カフェ・美容院などの接客店舗も同じ空間を分けても良いはず。それら様々な人々が同じ空間をシェアすることで今までにない新たなコミュニケーションの起点が生まれるのではないかと考えます。しかしながらある程度のプライバシー・セキュリティは必要です。本提案 [Raindrops] では、その空間を各々に仕切る窪みのある変形ガラスを考案しました。変形ガラスを透過した空間の歪みによってそれぞれ異業種が緩やかにつながります。このようなオフィスデザインによる職場環境は新たな時代の幸せな働き方を示唆するものであると考えます。



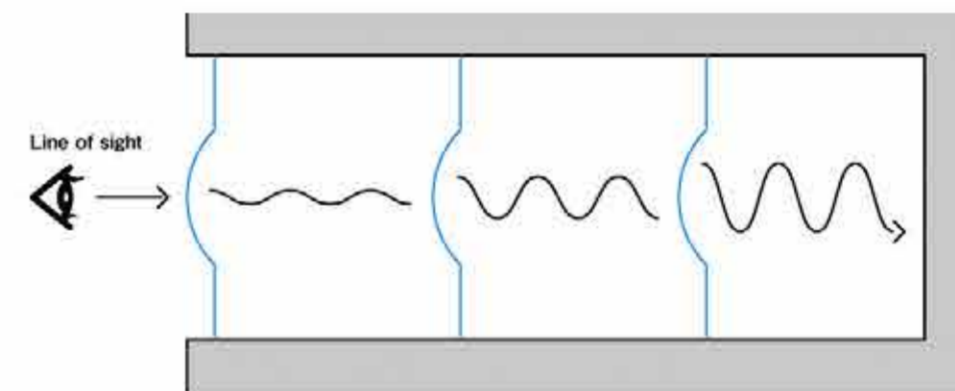
Zoning



Glass



ガラス板は一般的には平坦（あるいは曲面）であるという認識を飛び越え、ランダムに窪みのあるガラス板をオフィスの間仕切りに採用します。



視線を遮るのではなく、歪ませる。

境界は遮蔽でもなく、半透明でもなく、あくまでクリアです。ガラス越しの空間を歪ませることで新たな空間の仕切り（あるいは繋がり）を創出します。そして視線の移り変わりで顔重にも異なった表情がうまれます。また窪みの重なりあった部分はさらに視界をゆがませます。

Another\_01



Another\_02



Another\_03

